

DOCUMENT EYE

133

混合交通を観察する

赤信号で交差点に進入するクルマは?

休日ともなると郊外のアウトレットショッピングやディスカウントセンター、ホームセンターなどの大型商業施設周辺の交通量が増加する。

こうした大型商業施設周辺への流入付近では、渋滞が発生しやすく、周辺の交差点では信号待ちの回数が増える傾向にある。往々にして、赤信号にもかかわらず交差点に進入してしまうクルマを見かける。

休日、郊外の大型商業施設近くの交差点でクルマの通過状況を観察した。



WHY

赤信号で交差点に進入するクルマは?

休日ともなると郊外のアウトレットショッピングやディスカウントセンター、ホームセンターなどの大型商業施設周辺の交通量が増加する。

こうした大型商業施設周辺への流入付近では、渋滞が発生しやすく、周辺の交差点では信号待ちの回数が増える傾向にある。往々にして、赤信号にもかかわらず交差点に進入してしまうクルマを見かける。

WATCHING

ほぼすべての赤信号時に交差点に進入するクルマが



赤信号の横断歩道を渡る女性とそれを待つクルマ

赤信号にもかかわらず前車に続いて交差点に進入

観察地点 / 埼玉県鶴ヶ島市脚折町4丁目付近
 観察日 / 2月11日(日曜日)
 天候 / 晴れ
 観察時間 / 15:10 ~ 16:10
 観察者 / 4名



赤信号で交差点に進入したクルマ1時間22台

休日、郊外にある交差点におけるクルマの通過状況を観察する

右折・左折レーンが設けられており、側道側は、交差点部分に右折レーンが設けられており2車線となる。

この交差点を右折しようとするクルマは、信号が「青」または「右折可矢印(青)」のときに右折が可能だ。だが、比較的交通量が多いために、右折車両のほとんどが「右折可矢印」で右折を行っていた。「右折可矢印」で右折できる時間は、幹線道路側が5秒、側道側が4秒だった。そのあとに「黄信号」が2秒点灯したあとに「赤信号」となる。

1時間の観察の結果、直進および左折時に赤信号を無視して進入したクルマは幹線道路側、側道側とも1台もなかった。黄信号では数十台見られたが、通過台数が多かった割にはマナーは守られているように思われた。

しかし、右折時に「右折可矢印」・「黄信号」が終わって「赤信号」で進入したクルマは多く、幹線道路側が58台(男性51名・女性7名)、側道側が4台(男性3名・女性1名)の計62台。信号を無視したドライバーの性別や年齢はかなり幅広いように見えた。多くは前車に続いて交差点に進入するというもので、信号が赤に変わってから交差点に飛びこむというクルマも観察された。どのクルマも急加速してというよりは、ゆっくり・堂々と右折していった例が多かった。一方、交差点内にクルマが取り残されるという例は見られなかった。

幹線道路側では観察時間内に31回「右折可矢印」が点灯したが、このうち30回の赤信号で右折を行なったクルマが観察された。つまり、ほぼすべての赤信号の際に右折するクルマが観察されているということだ。車種別では家族連れのミニバンなどが多く、ドライバ

1は男性が全体の8割以上を占めていた。高齢者マーク付きのクルマも観察された。

青信号に変わってから発進時にも急発進などは見られず、多くは右折車両をやり過ごしてから加速していた。一方、停止時も赤信号を予測して早めに減速、確実に停車したクルマが多く、

「右折可矢印」で右折を行なう場合、時間内に確実に右折できるかについてはドライバーの判断力に負うところが大きい。赤信号に変わってから右折するクルマがいると交差点の直進車は発進できず、渋滞の原因になる。曲った先に渋滞でもあれば、交差点に取り残されてしまう可能性も高いので、くれぐれも流れに乗って「行けるかもしれない」運転は行なわないこと。

スムーズな交通の流れを作り出していくために、自分が走行する車線のことだけを考えるのではなく、全体の流れを考えた運転をすることが大切だ。決して急がず、お互いを思いやりながらの運転を心がけよう。

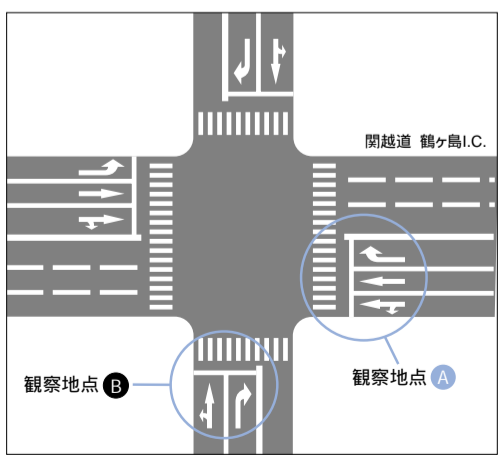
PROPOSE

「行けるかもしれない」運転はやめよう

総じてマナーはよかった。特に子ども連れのクルマは早めに停止していた。また、女性ドライバーも早めに停止する印象を受けた。

赤信号で交差点に進入したクルマ(1,900台中)

		A 幹線道路側		B 側道側		計
		右折	直進 (左折含む)	右折	直進 (左折含む)	
男性	通過台数	158	966	159	266	1,549
	赤信号で進入	51	0	3	0	54
女性	通過台数	24	161	31	73	289
	赤信号で進入	7	0	1	0	8



ご希望の方にお分けします

月刊「ザ・セーフティジャパン」2000年分縮刷版発行!

日頃から「SJ」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。本紙では交通社会、安全教育にかかわる様々な話題を取り上げ、充実した紙面づくりに努めています。

この本紙2000年の縮刷版をご希望の方にお分けします。切手2000円分を同封の上、下記までお申し込みください。4月30日まで受け付けております。

〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7 第7SYビル6F
 (株)アストクリエイティブ「SJ」縮刷版係